



ICT 海外ボランティア会会報 No. 91

2020年2月22日(土)

URL: <https://ictov.jimdo.com>

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿

ASEAN SMART CITIES NETWORK

(一財)海外通信・放送コンサルティング協力 専務理事
当会顧問 牛坂 正信氏

◆特別寄稿

徒然日記(8)

当会特別顧問 石井 孝氏

◆JICAの動き

JICA 海外協力隊 2020 年春募集

事務局

◆海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(15)

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー

元 NTT アメリカ社長

現(株)ハイホーCEO 鈴木 武人氏

◆海外グラフィティ

寺田虎彦と俳句、森村誠一と俳句

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆海外便り

ノルウェー俳柳紀行(5)

元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之氏

ASEAN SMART CITIES NETWORK¹

当会顧問

一般財団法人 海外通信・放送
コンサルティング協力
専務理事 牛坂 正信

本稿では、ASEAN が進めている ASEAN SMART CITIES NETWORK(以下、ASCN と略す)について紹介したいと思います。

「スマートシティ」という言葉は、今では普通に使われていますが、統一された定義はないようです。コンセプトとして捉えれば、凡そ次のような定義ができるのではないかと思います。

「環境に配慮しながら、人々の生活の質を高め、持続的な経済発展を目的に、都市を支える生活インフラ全体を統合し、最適化された都市の在り方をリードするコンセプト」



このスマートシティを ASEAN が推進しています。早速、見てみましょう。

ASCN は、2018 年 ASEAN 議長国のシンガポールが提案したもので、スマートで持続可能な都市が持つべきゴールに向けて ASEAN 加盟国内の都市が相互に協業できるためのプラットフォームを構築していこうというものです。当面のゴールは ASEAN 市民の生活を改善することとされています。この ASCN の目標は以下の 3 点です。

- (1) スマートシティ開発について実証都市間の協力促進
- (2) 民間と協力しての有望なプロジェクトの共同開発
- (3) 域外のパートナーからの資金調達

加盟国がそれぞれのニーズに応じて優先する社会課題を解消する実証都市を 3 都市選定し、2025 年までスマートシティ構築に取り組んでいます。その数、10 か国 26 都市、それぞれの都市が 2 つの優先課題を掲げて取り組んでいるので、全部で 52 の個別プロジェクトがあります。

なぜ、ASEAN がスマートシティに取り組んでいるのでしょうか？理由は、ASEAN 諸国での都市化の進展が挙げられます。1967 年の ASEAN 発足時におよそ 25% 程度であった都市人口が現在では半分以上の人々が都市に住み、更に 2025 年には 2/3 の人々が都市に住むだろうとされています。2030 年には、Jakarta、Bangkok、Metro Manila など 5 百万人を超える大都市や中堅都市（20 万から 200 万の人口）

¹ 出典 <https://asean.org/asean/asean-smart-cities-network/>

<https://www.clc.gov.sg/docs/default-source/books/book-asean-smart-cities-network.pdf>

<https://asean.org/storage/2019/02/ASCN-Concept-Note.pdf>

に 9,000 万人が移動し、特にこの中堅都市が ASEAN の成長の 4 割に貢献するだろうとされています。急激な都市化は多くの社会課題をもたらし、その解決の手段の 1 つがスマートシティというわけです。

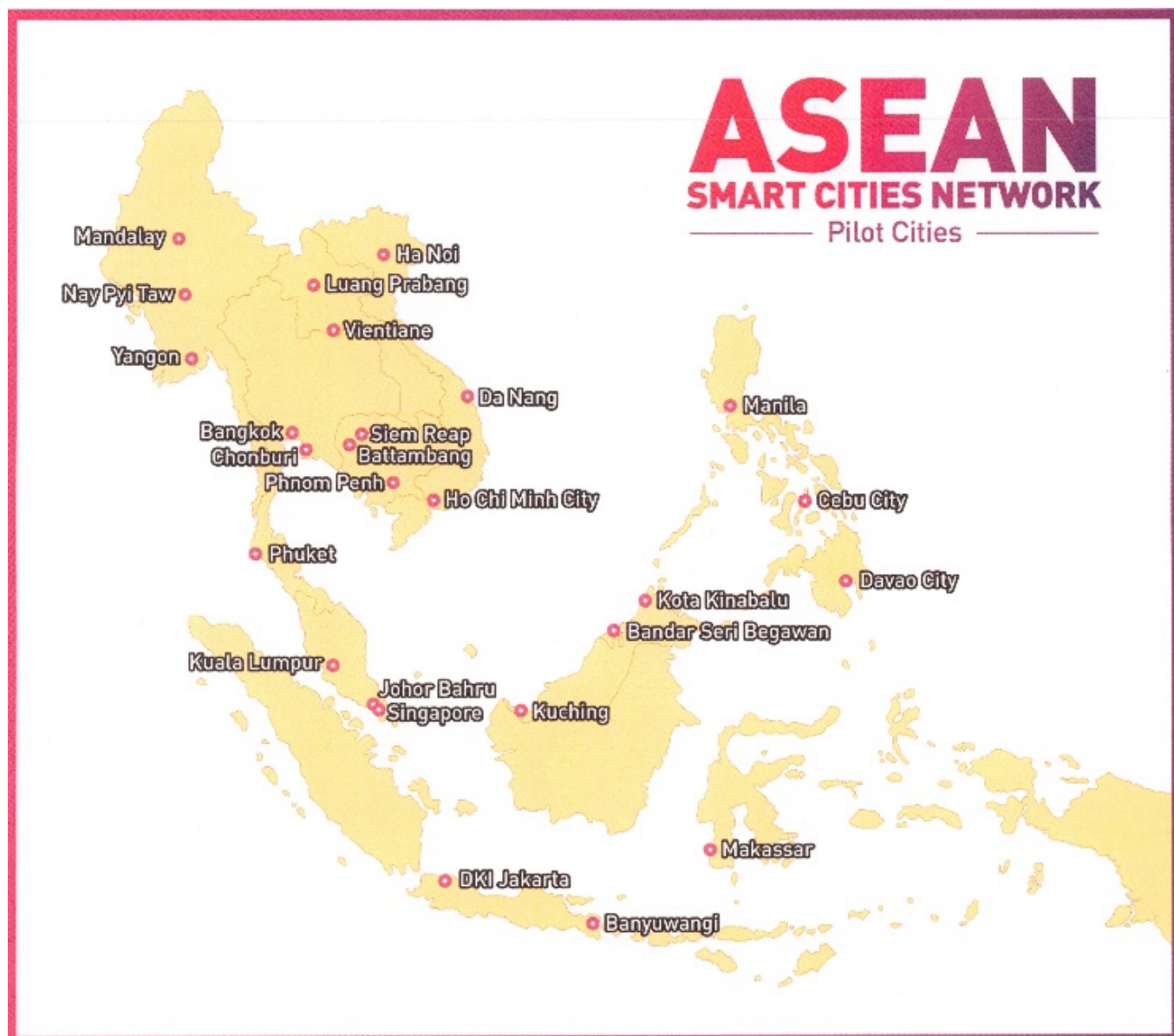


図 1 26 の実証都市

スマートシティ開発のためのガイド ASEAN Smart Cities Framework も作成されています。図 2 に全体像を示します。対象分野を 6 分野に分類し、最終的に High Quality of Life、Sustainable Environment、Competitive Economy の調和を目指しています。

それでは、幾つかの都市の取組みを見てみましょう²。マレーシアのクチン市（人口 68 万）では、スマート交通として交通信号のスマート化や洪水管理のためのスマート化に取り組んでいます。また、ミャンマーのマンダレー市（人口 123 万）でも交通制御のスマート化と上下水道管理のスマート化を目指して取り組んでいます。インドネシアのマカッサル市（人口 177 万人）では、病院間の医療システ

² 出典 独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）

https://www.ur-net.go.jp/overseas/AseanSmartCityNetwork/goodpractices_en.html

ムのスマート化と税制システムのスマート化に取り組んでいます。26 都市が取り組んでいる課題をフレームワークの 6 分野に大まかに分類すると、全体の 40%弱が「Build Infrastructure」で、その中でも特に交通関係に、そして全体の 20%弱が「Quality Environment」で、その中でも特に廃棄物管理、水管理となっています。都市化に伴い、交通や環境などの課題が従来の保健・衛生、教育等の課題と同様に大きな課題として認識されているようです。

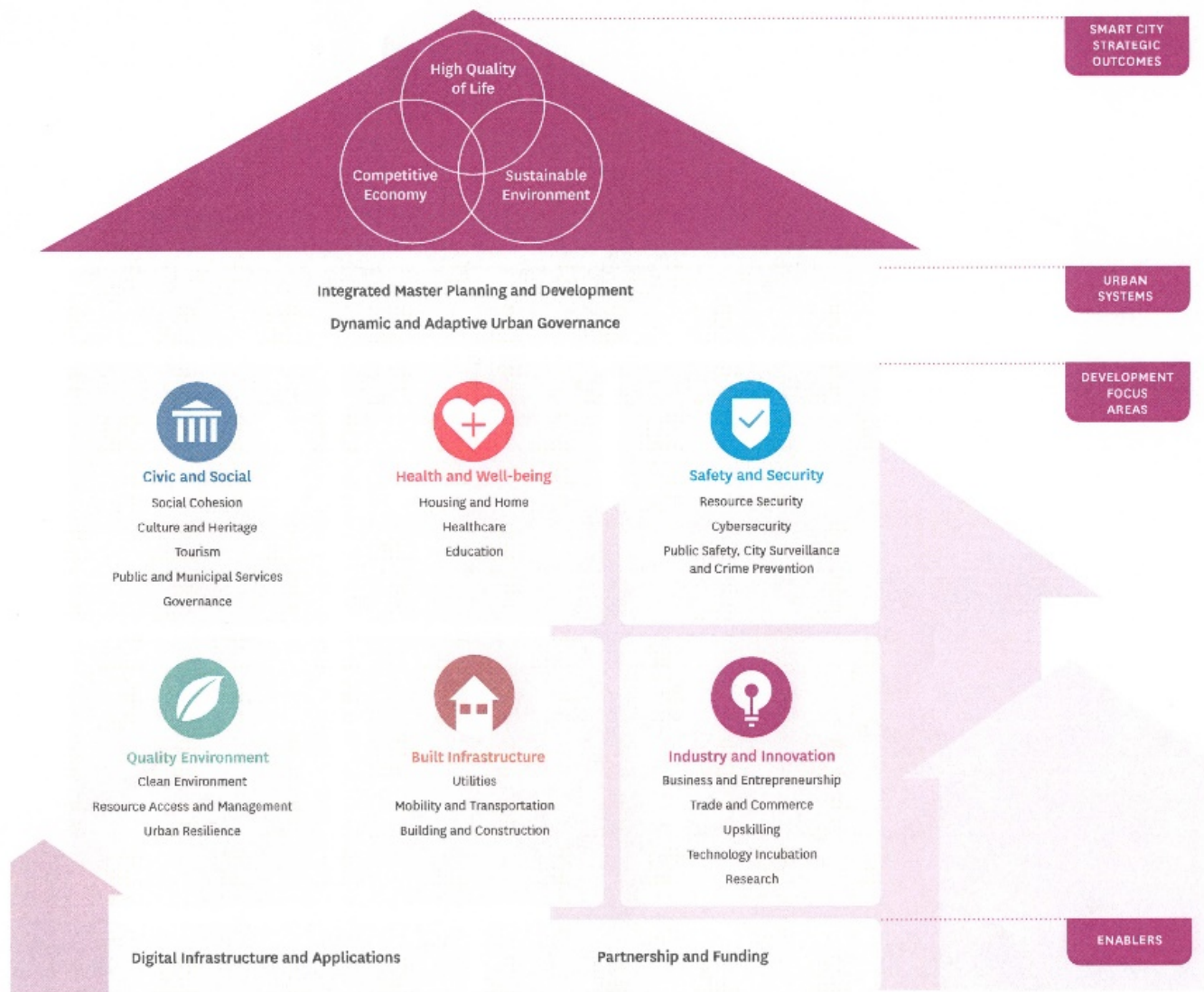


図 2 ASCN Framework

世界は DX (デジタルトランスフォーメーション) 時代に大きく舵を切り始めています。弊財団でも、DX 分野での国際協力を推進していくことにしており、この ASCN についても何らかの貢献ができないか、その動きを注視しているところです。

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

徒然日記(8)

当会特別顧問 石井 孝

「醤油電車」

埼玉県の岩槻に住んでいる。昔は岩槻町その後岩槻市になり、現在はさいたま市岩槻区である。

この町で首都圏に出るための交通機関は東武鉄道野田線であるが、現在は「トーブ・アーバンパークライン」と鉄道会社は洒落た名前を付けている。

この電車の発祥は、野田にあるキッコウマン醤油が醤油を東京に出荷するため野田と大宮間に敷設した貨物電車で、当時は「醤油電車」と呼ばれていたそうである。

その後総武鉄道となり、千葉と埼玉を結ぶ「総武線」として人を運ぶ乗合電車に昇格したが、当初は日に何本といった田舎電車であった。

時が経つにつれて東京に通勤・通学する人も増え、総武線は昭和の初期に東武鉄道に買収され、現在の東武野田線に到っている。

現在ラッシュ時は、ほぼ、5分間隔ぐらいで運行され、首都圏にダイレクトにアクセスしない地方路線にしては大変な繁盛ぶりである。

岩槻駅も長い間、総武線当時の「停車場」の雰囲気を残した建物であったが、つい最近、イメージを一新して「岩槻城」を模したのであろうか、大変立派な駅舎に生まれ変わった。

50年以上も前のことになるが、東京へ通っていた頃を思い起こすと、この電車に乗ると必ず知った人に遭い、些かワイルドな「岩槻弁」で世間話などに興じたものであった。ところがこの頃はというと、知り合いに巡り合うことは滅多に無い。そして電車の中での話し言葉は、みな東京弁というか、TV言葉になって、かの「岩槻弁」などは全くお耳にかからない。

生まれ育った街を離れて半世紀、定年を迎え戻ってみると、住む人、街の装い全てが、がらりと変わってしまった。

しかし、街の風情というか土地柄というか人情の佇まいは、街の東端を流れる元荒川のように、相変わらずゆったり、まったり、普段着のままの感じである。



「ソフトウェアは生命線 利用者が内製し管理せよ」

「事業の根幹である電子交換機が故障した時、自分達の手で直せないのはおかしい。交換機用のソフトウェアの開発をコンピューターメーカーに丸投げしているからだ。石井君、どうだ。自分達で直せるように、ソフトウェアを内製してみないか。」

日本電信電話公社（当時）の真藤恒総裁は私を呼びつけるや否や、こうまくし立てました。1985年4月に公社が民営化される直前の出来事でしたが、コンピューターや交換機を動かすソフトウェアの重要性を熱く語った真藤氏の姿を今でも鮮明に覚えています。NTTの誕生と同時に、内製化を手がける「中央ソフトウェアセンタ」が新設され、私は所長に任命されました。

折に触れ、真藤氏とソフトウェアについて話し合ったので、その真意を知ることができました。よく聞いてみると、交換機の修理うんぬんはきっかけに過ぎず、真意は「こ

れから社会のあらゆるところにコンピューターが浸透し、社会そのものが“ソフトウェアオリエンテッド”になる。その時に備え、高品質で高い信頼性を持つソフトウェアを開発する力を NTT の中に蓄えておきたい」ということだったのです。

ソフトウェアの内製化は取り組んでみると大変な難業でしたが、真藤氏の後押しもあって、丸 5 年後には交換機ソフトウェアを自力で開発し、直していける体制を築けました。悪戦苦闘を通じて体感したのは、「ソフトウェアは成長を続ける生き物であり、その成長をきちんと管理しなければならない」ということです。

いったん開発を終え、ソフトウェアを使い始めると、次々に機能追加や修正作業が発生します。この作業を続けていくと便利になる一方で、ソフトウェアはいつの間にか増殖し、気がつくソフトウェアがすべてを支配してしまい、それなしでは仕事ができない状態になってしまう。従って、秩序ある成長ができるように管理することが肝要です。最初の開発は手始めに過ぎず、使い出してからが本番なのです。

二十数年経った今、真藤氏の言った通りになりました。ソフトウェアは社会の仕組みや企業のビジネスの至る所に入り込み、増殖しています。残念なことに、年金問題や証券取引所の不具合に象徴されるように、品質と信頼性の問題が表に出てきてしまいました。しかも、これは氷山の一角に過ぎません。多くの企業は、自社のビジネスを支配しているソフトウェアの開発や維持管理の仕事を外部に丸投げしており、自力で管理する力がありません。

この問題を解決するには、ソフトウェアを利用する組織や企業が内製できる力をつけるしかありません。その力を持ってこそ、たとえ開発を委託したとしても、外部企業の仕事ぶりを見極められるのです。内製化は難業です。真藤氏がソフトウェアに関心を持ち、現場を鼓舞してくれたように、経営トップが問題を認識し、ソフトウェアの維持・管理を担当する部門が意欲を持って継続的に取り組めるよう目配りすべきです。

ソフトウェアを恐れることはありません。ソフトウェアは 100% 人間の手で作る生産物ですから、それにまつわるすべての問題は人知の及ぶ範囲内にあります。だからこそ、担当者のモチベーションが重要なのです。「企業は人なり」と言われます。これをもじって言えば、「企業はソフトウェアなり、ソフトウェアは人なり」です。

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

JICA 海外協力隊 2020 年春募集

事務局

JICA 海外協力隊 2020 年春募集(長期派遣)が 2 月 20 日に開始されました。募集期間は 3 月 30 日(月)正午までです。当会会員が応募しやすい案件を抜粋しましたので、奮ってチャレンジしていただければ幸いです。また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、ご関心のある方はご参加をお勧めいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/application/>
<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/place/>

なお、一般案件のうち、20～53 歳を対象にしている案件は記載しませんでしたので、それらの案件にご関心のある方は上記サイトをご覧ください。

< 区分欄 > A : シニア案件、B : 一般案件

区分		国名・配属先	要 請 内 容
コンピュータ 技術	B	インドネシア 国立ビナダクサ障 害者職業訓練リハ ビリテーションセ ンター	障害者の就業支援で高い成果をあげている国立職業訓 練センターで、入所者の社会的自立に向け、プログラ ミングやネットワーク構築に関するコンピュータ技術 移転が期待されています。障害者との交流を通し、良 き理解者となれる人物が求められています。
コンピュータ 技術	B	インドネシア 国立ブディダルマ 高齢者リハビリテ ーションセンター	国立の高齢者介護リハビリセンターで、管轄州に住む 高齢者の健康管理を目的としたデータベース構築の技 術支援と同僚スタッフへの知識移転を行います。プラ イバシーに配慮しながら、運用しやすいデータ管理の 知見が求められています。
コンピュータ 技術	B	タイ 泰日工業大学情報 技術学部	情報技術学部で、コンピュータグラフィックデザイン やアニメーション、デジタル画像処理等について、担 当する教員や学生等へ指導する活動です。
コンピュータ 技術	B	タイ 泰日工業大学情報 技術学部	2018 年に新規開設された「データサイエンス・解析学」 コースへ助言やビッグデータの解析、データ分析等を 担当する教員や学生等への支援・指導を行います。
コンピュータ 技術	B	ミャンマー ミャンマー港湾局	ミャンマーにおける港湾 EDI システム(入出港や荷役 に関する各種行政手続きを電子化するシステム)の運 用・保守を支援します。ミャンマー海運を裏で支える 重要なシステムを守り育てることで、ミャンマーの経 済発展に貢献します。
コンピュータ 技術	B	ミャンマー 情報通信技術研修 センター(ICTTI)	大卒者向けの ICT 産業人材育成コースにおいて講義や 教材整備を行います。現場で必要とされている実践 的なネットワーク管理の知識や経験を共有することで、 ミャンマーの ICT 産業がさらに発展することが期待さ れます。
コンピュータ 技術	B	ミャンマー マンダレーコンピ ュータ大学 (UCSM)	産業人材育成を目的としたコンピュータ大学におい て、組み込みソフトウエアもしくはハードウェアの技 術を教官、学生と共に学びます。学生による制作プロ ジェクト(実習)を支援し、実践的な技術習得と創意工 夫を促すことも期待されています。

コンピュータ技術	B	パプアニューギニア 東ハイランド州立 ゴロカ病院	州都である任地は交通要所として物資も集まり生活環境が良い地域であることから、近隣の山岳地方(計7州)の中心的な病院として整備が進められています。隊員は州立総合病院でIT管理、データベース構築の支援及び職員に対するセミナーを行います。
コンピュータ技術	B	トンガ トンガ高等教育専門 学校(TIHE)	トンガ高等教育専門学校において、同僚IT技術者らとともに校内のサーバー、データベース管理、更新作業を行いながら技術的な助言・支援を行います。
コンピュータ技術	B	サモア 気象局	全国9か所に設置されている気象観測点(国際気象観測ステーション)からインターネットを介して送信される気象データの自動送信システムの保守管理について、OJTで同僚の技師を指導し、技術の向上を目指します。
コンピュータ技術	B	ドミニカ共和国 ラス・アメリカス 技術専門学校	国内唯一の情報技術・教育専門学校において、携帯電話のソフトウェアやAIなどソフトウェア開発の講師のニーズに合致した内容の指導を行います。可能であれば、ゲームデザイン開発コースを設立するための支援活動も期待されています。
コンピュータ技術	B	ドミニカ共和国 選挙・市民権養成 学校	中央選挙委員会傘下の学校にて、IT技術を活用した通信・遠隔教育の実施と、マルチメディアプログラムの充実に向けた活動を行います。
コンピュータ技術	B	モロッコ 国立デジタル教材 研究所	国立デジタル研究所において、低学年児童(障害者を含む)の学習効果を高める教材アプリケーションの開発を行います。同僚、他地域に派遣されている同職種隊員とも協力し、国の政策であるITを利用した学力向上に貢献します。
コンピュータ技術	B	モザンビーク 財務情報システム 開発センター	首都にある経済・財務省管轄の財務情報システム開発センターに於いて、不正アクセス対策を支援し、モザンビーク政府の経済財政改革への取組みに貢献します。
コンピュータ技術	B	モザンビーク 財務情報システム 開発センター	首都にある経済・財務省管轄の財務情報システム開発センターで、財務関連サブシステムのシステム設計・開発を支援します。モザンビーク政府の経済財政改革への取組みに貢献します。
コンピュータ技術	B	ウズベキスタン 国際イスラムアカ デミー	首都の大学において情報工学専攻の学生に対してウェブアプリケーション開発の授業を実施します。また、得意なテーマで同僚講師に対するIT分野のセミナーを企画・実施し、教員の知識向上に貢献します。
コンピュータ技術	B	ウズベキスタン タシュケント情報 技術大学ヌクス校	地方の情報系大学で、同僚教師と協力しながら、学生に対してコンピュータプログラミングの授業を担当します。また、若手の教員に対するスキルアップセミナーやアドバイスも行います。
経営管理	B	パプアニューギニア 計画評価局	州政府の開発計画を担当する部局で、農家の組織化を通じた米作普及事業や若者の就業支援に係る事業の実施及びそのモニタリング・評価を支援し、パソコンを活用しながら事業の効率化や新規事業の企画立案等に協力します。
経営管理	B	ドミニカ共和国 ドミニカ共和国輸 出業者協会	輸出を通じて当国が社会的・経済的に発展することを目的に設立された協会で、企業診断のフォーマット改善、診断結果を受けた助言の実施、協会傘下の輸出業者の海外市場での競争力強化を支援します。

経営管理	B	ボツワナ SOS チルドレンズ ビレッジ・ボツワ ナ	配属先である NGO において、スタッフと協力してより現在実施中のファンドレージングや NGO 運営改善に向けた支援を実施します。配属先のウェブサイト及び SNS を有効活用したファンドレージングについての助言も実施します。
経営管理	A	メキシコ 職業技術高校 (CONALEP)ケレ タロ州事務所	地方の職業技術校州事務所に赴任し、本部と地域 4 校の現状、過去に実施したプロジェクトの状況把握、地域企業との連携状況の診断を行い、地域企業との連携強化、組織の情報の流れや活動の改善、プロジェクトの定着化を目指します。
経営管理	A	メキシコ グアナファト州イ ノベーション・科 学・高等教育省	メキシコに進出している日系企業の拠点の州において、2つの工科大学で KAIZEN、5S、日本的生産方式等の講義を行います。
経営管理	A	チュニジア 機械・電気産業技 術センター (CETIME)	配属先は、電気・電子機器・産業機械製造業の関連企業らに技術支援を行っている公的機関です。隊員は、配属先の担当職員が実施している、品質・生産性向上にかかる手法の企業巡回指導を一緒に行い、職員らの技術向上を支援します。
経営管理	A	ザンビア ザンビア商工会議 所	配属先職員の組織運営能力向上を支援するとともに、国内外の貿易・取引・投資に関する知識や実務能力の向上を支援します。併せて、会員企業への同様の情報提供が望まれています。
経営管理	A	ザンビア ザンビアカイゼン 機構	現場 OJT を通じた配属先コンサルタントのカイゼン指導能力の向上、新規顧客の開拓等を通じたカイゼン活動の普及・定着の支援を行います。合わせて、配属先の組織運営に関する助言を行います。
マーケティング	B	コスタリカ ティララン市役所	配属先の中小企業支援プログラムに協力し、所属する生産者へマーケティングの講習会を実施します。地域の一員として保守的な生産者に寄り添いながら、商品改善に必要な意識改革に取り組むことが求められています。

(注) 「一般案件」とは幅広い経験・技能等で応募可能な案件、「シニア案件」とは一定以上の経験・技能等が求められるもの、例えば教員や看護師のような資格や実務経験を 15 年程度以上求める案件を指します。

シニア案件で派遣される方に対しては、一般案件の方の待遇に加えて、経験者手当として国内で月額 20,000 円×派遣期間が支給されます。

海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(15) — 『NTT を巡るグローバル環境の変化』日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、 そして NTT のグローバル化へ—

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー
元 NTT アメリカ社長
現 株式会社ハイホー CEO
鈴木 武人

8章：危険な体験と対処(FBI から逃亡成功、裁判でも勝利！)

8-1:米国独占禁止法

米国の独占禁止法(反トラスト法)の中身は複雑で、此处では述べません。ただ、米国ではレーガン時代から製薬会社や自動車部品等多くの日本企業が同法に基づき、司法省によるホワイトカラークライム捜査の対象となり、1件当たり 100 億円程の課徴金、また幹部にも 1~2 年の実刑が課されています。



IT 関係で日本人が実刑となったものは、これは独占禁止法によったものではありませんが、先に触れた 1982 年の IBM-日立事件が有名です。これは産業スパイ事件とされており、米国内にいた日本人 6 名が逮捕、また DIPS 関係で知己を得ていた日立の小田原工場長を含めて 12 名に逮捕状が出されました。日立、富士通、NEC、三菱電機等多くの日本企業がこれによってコンピュータ関連事業の経営方針を変更しました。米国での訴追の怖さ、影響の甚大さがお解かりと思います。

表. 実刑を科された日本人

(2012年から2014年9月まで)

禁固	罰金
24ヵ月	2万米ドル
24ヵ月	2万米ドル
18ヵ月	2万米ドル
18ヵ月	2万米ドル
16ヵ月	2万米ドル
16ヵ月	5千米ドル
16ヵ月	2万米ドル
15ヵ月	2万米ドル
15ヵ月	2万米ドル
15ヵ月	2万米ドル
15ヵ月	2万米ドル
14ヵ月	2万米ドル
14ヵ月	2万米ドル
14ヵ月	2万米ドル
14ヵ月	2万米ドル
13ヵ月	2万米ドル
13ヵ月	5千米ドル
1年1日	2万米ドル
1年1日	2万米ドル
1年1日	2.5万米ドル
1年1日	2万米ドル
1年1日	なし

企業に忠実の余りに犯してしまう、ホワイトカラークライムの大部分はカルテル(反トラスト法違反)の構成です。日本電線会社、ガラス等数え切れない程の事案がありますが、著名なものは 2010 年 2 月頃からアメリカ司法省が捜査を開始した日本の自動車部品の価格カルテルのケースです。2014 年 9 月末までに 29 社が有罪判決を受け、43 名の個人が起訴され、そのうち 26 名が有罪判決を受けています。有罪判決により科された罰金額の合計はその期間だけでもすでに 24 億米ドルを超え、日系企業に科された最高額は 4 億 7,000 万米ドルとなっています。

小生を巡る事案はフィリピン側通信会社が課した米国との国際通信料金(フィリピン側終端料金)の設定に関するフィリピン通信会社間のカルテルの疑いです。

8-2 : PTC (Pacific Telecommunications Council) での状況

PTC は世界の通信業界のイベントの一つで、展示やセミナーも有りますが、実態はテレコム分野の TPP 交渉の様なものでした。インターネットの発展で、現在はその様相は大幅に変わったでしょうが、当時の国際電話の料金は通信会社が個別に各国の通信会社間での通信料金按分交渉、またその清算(支払)を取決めており、PTC はその交渉をする場でした。発信側の電話会社は国際料金を国毎の料金表によって顧客に課金します。そして発信側電話会社はその中から着信側電話会社との取決めによって着信電話会社へ着信料金を支払うと言うことでした。フィリピンの着信側電話会社はさらにローカルの電話会社にアクセスチャージを支払ってその運営を支援する仕組みです。個別の料金交渉は PLDT の担当者の業務であり、PLDT の代表としては大口通信会社、例えば巨大に未払いをため込んだり、勝手に料金設定をしようとする AT&T 等に対して、その修正、支払いを迫るのが役割です。

今回は闇の国際通信のせいで値崩れした国際着信料金を、その解決によって回復する事が大きな課題でした。海外からの投資を促進する事を目的に、フィリピンの米軍基地跡の保税特区内に限って、安価な国際電話提供をする事として居り、このためその経緯から AT&T と PLDT の JV 会社がこれを運営していました。この JV 会社は保税区内でのサービスに限られており、その他の地域へのサービスは無免許でした。所が、そのサービスを無免許で“フィリピン全土への安価な国際電話着信”として世界中の発信電話会社に提供して、多量の電話着信を集めて利益をあげ、さらにその一部を着服していたという事案でした。発見のきっかけは Globe 社 CEO の A b l a z a 氏と小生の内密な面談をしていた際に指摘を受けたからですが、PLDT に調査させたところ、既にフィリピン全体の国際着信トラフィックに影響を与える状況にあったのです。急遽その JV を停止させ、結果的に AT&T との関係も解消する事としました。PLDT ではこの事案が発覚した時点で、AT&T の持株分を同社への債権を利用して購入し、100%子会社としたのです。ただ、その動きを察知した AT&T からの出向者と現地側の数人が横領した金を持って米国へ出国してしまい、彼等がその金で超高級スポーツカーを疾走する様までが報告され、地元では何故犯罪者が優雅に暮せるのかと小生にクレームが有ったくらいです。

フィリピンでのこの事案の整理が完了し、これを背景に直後のホノルルでの PTC(太平洋通信委員会)で世界中の通信会社と着信料金の見直し交渉を開始しました。国際通信の料金収入はフィリピンの様な開発途上国では着信料金が大半を占めるので重要です。各国との値上げの合意には時間を要しましたが、最後まで残った AT&T との調印がとれた翌日、シャワーを浴びている時に比国大使館(大使)からの情報が入りました。内容は P T C に PLDT 代表者として小生の部屋番号まで登録されており、『貴方宛に米司法省から反トラスト法に基づく召喚状が発行され、FBI が貴方に向っている』との連絡でした。Smart の CEO の Nazareno 氏から該当の弁護士を紹介してもらって話を聞くと、『召喚状は逮捕権がついており、場合によっては長期に拘束の恐れもある、但し、米国領土の外では発効されないの、直ぐに米国領土から脱出することが最善』との事でした。結果、トランクを置いたまま、裏口から脱出、タクシーを乗り継ぐ事で FBI から逃回り、深夜にバンクーバーに脱出し、拘束は避けられました。ただ、本件解決には最高裁の『本件は米国には司法権が無い』との判決を待つ必要があり、無罪放免には小生の帰国後の 1 年を含む約 2 年を要しました。

8-3 : Subpoena とは

Summons, Warrant くらいなら高校で習う単語ですが、Subpoena なんて英語らしくない、聞きなれない言葉でしょう。直ぐに同行の弁護士に問い合わせた所、サフィーナは逮捕権付き召喚状で、米国領土内でしか執行(見せる事)されないが、執行されるとその指定する施設、良くて市内の特定エリアから出る事を禁止され、随時捜査・裁判への出廷に応ずる事が義務とされる。これに違反したり、出頭要請に応じないとそれ自体が直ちに刑事犯となる。解放される期日は事案によるとの事(下図参照)。小生はコンピュータが背景ですから、1982年の日立IBM産業スパイ事件による情報産業全体にわたる影響や罰金・逮捕・収監を始め、自動車部品を中心とする反トラスト法違反による厳しい取り扱いから、PLDT に対する膨大な罰金、また経営への影響を思い浮かべました。

Subject: Subpoena in case #79-449-BOT

All Rights Reserved Subpoena & Court Case



Issued by the
UNITED STATES DISTRICT COURT

Issued to: [REDACTED]

SUBPOENA IN A CIVIL CASE

Case number: 79-449-BOT
United States District Court

YOU ARE HEREBY COMMANDED to appear and testify before the Grand Jury of the United States District Court at the place, date, and time specified below.

Place: United States Courthouse
800 First Street
San Diego, California 92101

Date and Time: May 7, 2008
9:00 a.m. PST

Room: Grand Jury Room
room 4217

Issuing officers name and address: O'Malley & Meyers LLP, 900 South Hope Street, Los Angeles, CA 90071

Please download the entire document on this matter (follow this link) and print it for your records.

This subpoena shall remain in effect until you are granted leave to depart by the court or by an officer on behalf of the court.

何が何だかわからない中、今度はマニラからの連絡で終端料金の正常化(値上げ)の為にフィリピンの通信会社間でカルテルを構成したとして、独占禁止法違反の疑いで連邦司法省(DOJ)が Subpoena を発行した事。PTC の出席者リストに小生が P L D T の代表者として表示されており、また小生以外にも比国からの出席者にも発行されたと言う事でした。とにかく米国の領土から避難する事が最善との弁護士の判断であると知らされました。(次号に続く)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外実践マネジメント/>

寺田虎彦と俳句

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



戦前の著名な物理学者である寺田虎彦氏が俳人でもあるとは実は知らなかった。

むしろ、虎彦氏の名前を世に知らしめたのは、「天災は忘れたころのやってくる」という警句かもしれない。

いくつかの俳句を残しているが、極めて素直なものが多い。

- * 煙草屋の娘美しき柳かな
- * 電線に凧のかかりて春の風
- * 昼顔やレール錆びたる旧線路

随筆家としても知られていて、私も傑作「茶碗の湯」を読んだことがある。科学と文学を調和させたものが数多く見受けられる。実はこの「茶碗の湯」という随筆を読んだ旧制中学生竹内均が感激、東京帝大地球物理学科に進み、のち日本の地球物理学の権威となる。

虎彦氏は明治11年（1878年）に東京麹町に生まれる。東京帝国大学に学びそのまま学究に打ち込み東京帝国大学理科大学教授になり、それまでにベルリン大学に留学、パリ、イギリス、アメリカにも訪れていて、昭和3年には帝国学士院会員にもなっている。

寺田虎彦との接点は高校時代にさかのぼる。都立小石川高校の同級に寺田俊彦という虎彦の孫がいたことである。俊彦君は英語が得意で、東京外国語大学を目指していたが、一浪して早稲田の法学部にはいった。残念だが、卒業後幾年かして病死したと聞いた。

「俳句の精神」という虎彦の随筆は自身素人と謙遜しながらも、恐ろしくポイントをついたものになっている。

* 日本人は西洋人のように自然と人間とを別々に切り離して対立させるという言わば物質科学的の態度をとる代わりに、人間と自然を一緒にしてそれを一つの全機的な有機体と見ようとする傾向を多分にもっているように見える。

* この自然観の違いが、一方では科学を発達させ、他方では俳句というきわめて特異な詩を発達させたとも言われなくはない。

* 俳句の修行はその過程としてまず自然に対する観察力の錬磨を要求する。俳句をはじめめるまではさっぱり気づかずにいた自然界の美しさがいったん俳句に入門するとまるで暗やみから一度に飛び出してでもきたかのように眼前に展開される。今までどうして気がつかなかったか不思議に思われるのである。これが修行の第一課である。しかし自然の美しさを観察し自覚しただけでは句は出来ない。次にはその眼前の景物の中からその焦点となり象徴となるべきものを選択し抽出することが必要である。

* 俳句を研究することは日本人を研究することであり、俳句を修行することは日本人らしい日本人になるために、必要でないまでも最も有効な教程であり方法である。

* 俳句の滅びない限り日本はほろびないと思うものである。（了）

森村誠一と俳句

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智

推理小説作家森村誠一と俳句とはどうしてもストレートには結び付かないのだが、俳句の中でも、「写真俳句」という分野で自身、こう述べている。「ルールが無いのが写真俳句のルールのようなもの。写真俳句は生活の縮図ですから無季語でも構いません。写真に季語を語らせてもけっこうです。句材をカメラで撮影し、後で俳句を作っても良いし、俳句が先に出来て、それに合う写真を探してもいいんです。あなたも写真俳句の楽しさを知ってください」。

テレビ人気番組「プレバト!!」の俳句でも、参加者に対し事前に「お題」と「兼題写真」を提示して始める。もともと、ビジュアルで勝負するテレビならではの手法だが、効を奏していると言える。

私も時々講演をするが、他人の講演を聞くことも多く、最も感銘を受けたのが森村誠一の「人生の証明になるような小説」であった。店主の角川春樹に頼まれて執筆したのだが、「みやげの荒巻鮭を背にして、駆け出しの新進作家に対し人生の証明になるような小説を書いてくれ」といきなりの注文だったようだ。作家の小説作法は主に①体験②徹底取材の二通りであるが、映画やTVドラマとも相まって、爆発的に売れたのが自らの体験に基づいた「人間の証明」であり、映画の出演者でもあったジョー山中のテーマソングであった。

全編に流れるテーマは「反戦平和」と「親子の情愛」である。出身地熊谷では、終戦の日の朝にも関わらず、市街の7割が消失するという空襲があり、12歳の少年の目に焼き付いた焼け跡の光景が反戦平和という情念の礎となっている。その後、青山学院に進学するが、就職もままならぬ大学四年の時に、従来山好きの筆者が、霧積高原にハイキングに出かける。その時、金湯館という名の旅館が準備してくれた弁当の包み紙に印刷されていたのが西条八十の「僕の帽子」という詩の一節である。

母さん、僕のあの帽子、どうしたんでせうね？
ええ、夏、碓井から霧積へゆくみちで、
谷底へ落したあの麦わら帽子ですよ。

母さん、あれは好きな帽子でしたよ、
僕はあのときずいぶんくやしかった、
だけど、いきなり風が吹いてきたもんだから。

森村誠一のそれは、質問なしの二時間きっかりの講演だったが、推理小説のごとく、論理的で隙が全く無かった。二時間の講演のために実に六時間分のメモを用意するという周到さである。論理と情念この二つが小説でも俳句でも必須なのかもしれない。(完)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外グラフィティ/>

ノルウェー俳柳紀行(5)

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

アナ雪の先に描くや孫娘

えぬえぬ しんかんせん
NN を結ぶ夢路の新貫船

フィヨルドの奥深い水辺に集落がある。よくこんな所に人が住んでいるものだ。陸路は険しく岩山と森林地帯、水路しか交通の便はないはず。そこがヴァイキングの昔から続くサーメ人等の生活の場なのだ。自然の中に埋没、孤独の世界から森の精(wood nymph)が現れてくる。西海岸一帯は妖精(トロール:Troll)たちの逸話の故郷なのである。「アナと雪の女王」、2014年公開の大ヒット映画であるが、私は全く知らなかった。遊びに来た孫娘に尋ねると、「何で爺は知らないの」とバカにされる。よくよく話を聞けばノルウェーの自然が醸し出すメルヘンの世界へと展開する。トナカイなど実在の動物、鼻や耳の大きい妖精、文化が滲み出す民族衣装など興味津々、夢のような次元へ誘われる。USJのハリポタ効果に対抗して、TDLではアナ雪で興行ブレイクを狙った。

それでは孫娘の向うを張り爺はどんな夢を描くか。N(Norway)とN(Nippon)を結ぶ新航路の開設である。ともに世界に冠たる海運国を自認する両国、ヨーロッパ・アジア間の最短海上輸送を原子力潜水船によって北極海(the Arctic Ocean)経由で行う。北極(North Pole)通過時は潜水、ノルウェー海ないしアリューシャンから太平洋航行時は海上に浮上する。オイル輸送の場合は潜水タンカー、その他の鉱物資源や海産物、農産品、輸送機器、機械類などの積み荷は多目的貨物船になる。北極海を貫く「新貫船」構想、日本政府の北極政策とも相俟って正夢になるであろうか。

オスロ市価おいど毛抜かる恐ろしか

免税でウイスキー選ばん上戸かな

カード万能キャッシュ主義捨てて利便追い

第1句は五七五頭韻句、上五と下五は対句。「おいど」は御居処(オト)、つまり尻のこと。調子よく飲み食い観光やっているとケツの穴毛まで抜かれかねない。そんな篋棒(べらり)に物価の高いノルウェーともお別れのときが来た。

今まで海外旅行は当該国の通貨を用い、ほとんど現金で決済することにしてきた。しかし、今回のノルウェーでは現金よりキャッシュカードによる支払いが普及していて、ホテル代はもとより交通機関の切符代、ファーストフードの飲食代など、金額の大小を問わず何でも掌大のフィーダーにカードを差し込み、暗証番号と最後にOKボタンを押すだけで支払いは完了する。便利になったものだ。一昨年のストックホルムでも、地下鉄の乗車券はカードで購入した。北欧諸国はなべてキャッシュレス決済が進んでいるようだ。この方が外貨購入時の手数料を省き、直接時価レートにて円に兌換され日本の口座で引き落とされる。スーパーでの少額の買物も、フェリー内でのアイスキャンデー1本でさえもカードで買える。これに気をよくしてガーデモエン国際空港の免税店では、酒らしい酒のないノルウェーのこと、アイルランド産のウイスキーを、残った現金と不足分をカードで支払って補い購入する。これでNok(ノルウェークローネ)の端数まで清算、すつき

りする。またドーハの免税店では商品券(クーポン)とカードでチョコレートを買求める。以前カタール通貨(ディルハム)の釣銭を貰ってうんざりしたことがあるが、今回はスマートに対応することができた。でも便利なカード決済主義も、うっかりすると買物が膨らみ浪費につながることになる。要注意！

奇を^{てら}衒う気力筋力気まぐれに

My fancy travels, show of being different, with a lot of fruits.

ノルウェー旅行の実行前は、最早通説の物価高に身構え、雄大な自然美に触れる期待に心ときめかし、短期間の四大都市巡りに耐えられる体力強化を図ってきた。現地に入ってみると、天候は良かったが予期せぬ暑さに辟易することもあった。日本とは真逆の国勢状況に戸惑いながらも幾多の示唆に富む教訓を得ることができた。これも単なる物見遊山の旅ではなく、温故知新、人知探求のための修行なればこそ。新奇と伝統の結合と調和、我また頑迷固陋から脱し自由斬新の身となり、着の身着のまま気の向くままに臨機応変の旅をする。これからもこの信条に沿って終活の余生を送りたいと願う。第1句は五七五頭韻句、第2句は英語発音準拠英語俳柳、‘Truth is stranger than fiction’ (事実は小説よりも奇なり)に通ず。さあ生きてる限り人生修行の旅に出よう。(完)



ムンクの叫び

仮題「女の叫び」

王宮前

猛暑のオスロ

< 日程 >

5/29(火) QR807 NRT22:20→04:10DOH (翌日) 機中泊

5/30(水) QR175 DOH07:25→13:10OSL、エアポート・エクスプレス(シニア割引)で中央駅へ。ホテルチェックイン後、オスロ市内散策(中央駅インフォメーション、市庁舎、大聖堂、ヴァイゲラン公園等)、オスロ泊(Scandic Byporten)

5/31(木) 列車でオスロ中央 08:34→9:50 ハマル(乗換)10:11→13:37 レロス「銅鋳山の町」散策(約2時間、レロス教会、廃坑跡、Trygstad Bakery & Café)、レロス 15:37→18:02 トロンハイム、ホテルチェックイン後、市内散策(ニータロス大聖堂、クリスチャン城塞、旧市街等)、トロンハイム泊(Best Western Plus Hotel Bakeriet)

6/01(金) トロンハイム市内散策(Bondens Marked 等)、バスで飛行場へ(45分)、SAS(SK4159)トロンハイム 12:05→13:05 ベルゲン、バスで市内へ、ホテルチェックイン後、市内散策(魚市場、ブリッケン、フロイエン山など)、ベルゲン泊(Zander K Hotel)

6/02(土) ソグネフィヨルド周遊、ベルゲン(列車)08:43→10:51 ミュルダール(乗換、フロム鉄道)10:58→11:55 フロム(昼食後フェリー・クラシック)13:30→15:30 グトヴァンゲン(バス、キップ車内購入)15:40→16:55 ヴァオス(休憩、列車)17:41→18:55 ベルゲン、市内散策(夕食)、ベルゲン泊(Zander K Hotel)

6/03(日) am.ベルゲン市内散策、バスでベルゲン 11:30→15:50 スタヴァンゲル(4.5 時間)、ホテルチェックイン後市内散策(旧市街等)、スタヴァンゲル泊(Best Western Plus Victoria Hotel)

6/04(月) リーセフィヨルドへ、スタヴァンゲル 8:40(フェリー)→9:20 タウ 9:30(バス)→9:55 フレーケストール・ヒュッテ、10:00～16:00(登り 2 時間で岩場頂上、フレーケストレン・ハイキング)、フレーケスト・ヒュッテ 16:30(バス)→16:55 タウ 17:20(フェリー)→18:00 スタヴァンゲル、夕食後夜行列車でスタヴァンゲル 22:37→07:25 オスロ(食堂車で部屋鍵受取り)、車中泊

6/05(火) ホテルに荷物を預けオスロカードで地下鉄・バス・トラム・遊覧船を駆使し終日オスロ市内散策(ムンク美術館、マートハーレン屋内食品市場、ノベル平和センター、ノルウェー民俗博物館、ヴァイキング博物館など)、オスロ泊(Smarthotel)

6/06(水) am.オスロ市内散策(王宮、オスロ国立美術館など)、pm.エアポートエクスプレスでカーテモエン空港へ、QR176 OSL16:35→00:05DOH (翌日)、機中泊

6/07(木) ドーナ空港免税店にて JCBギフト券(6000 円分)利用、QR806 DOH02:20→18:40NRT

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外便り/>

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 91 号を発行することができました。今回は新たに(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)の牛坂専務理事(当会顧問)から「ASEAN SMART CITIES NETWORK」のご寄稿をいただくとともに、徒然日記、海外実践マネジメント、海外グラフィティ、海外便りのご寄稿も継続していただき、誠にありがとうございます。海外便りのノルウェー俳柳紀行は終了しましたが、今回は新たな俳柳紀行のご寄稿をいただけるとのことであり、楽しみにしております。

第 43 回海外情報談話会は 2 月 27 日に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの関係から延期いたしました。参加予定の皆様にはご迷惑をお掛けしましたが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。新たな日程につきましては別途ご案内いたしますので、その節はご参加いただければ幸いです。

皆様からのさらなるご寄稿をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

発行：ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当：空席のため募集中(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当：山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)